

令和 5 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (1)教育の質的転換に関する事業、(5)地域への文化発信の拠点となる取り組み

申請組織 国際コミュニケーション学部

申請組織長 役職名 学部長 氏名 田所 光男

統括責任者 役職名 教授 氏名 長澤 唯史

課題名 地域に開かれた文化イベント「椋山文化フェスティバル」の企画開催

事業組織	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
	統括責任	長澤 唯史	国際コミュニケーション学部・教授	イベント責任者、渉外
	堀田 あけみ	国際コミュニケーション学部・教授	イベント企画・運営、広報	
	広瀬 正浩	国際コミュニケーション学部・教授	イベント企画・運営、学生統括	
	福永 智子	文化情報学部・教授	イベント企画・運営、渉外	

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本イベント「椋山文化フェスティバル」は国大コミュニケーション学部で毎年実施していた国際文化フォーラムを全学的なイベントとして位置づけ、地域や社会に向けて文化発信を行うイベントとして令和 3 年度から再スタートしたものである。過去においては現役の作家や映画監督、ミュージシャンなど各方面で活躍中の方々を招くトークイベントが主であったが、今年度は星が丘テラス（東山遊園）との共同企画として「星が丘文化フェスティバル」を開催し、より地域の活性化につながるイベントとして発展させることをめざした。星が丘地区の地域活性化を目指すものであるが、椋山だけではカバーできない幅広い活動を行うためには他の大学や組織との協働が不可欠であり、今年度は名古屋音楽大学との共同企画もスタートさせた。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

昨年までの椋山文化フェスティバル（およびその前身の国際文化フォーラム）に引き続き、名古屋市や東海地方に在住の作家・評論家・表現者の方々に加え、現在最前線で活躍中の作家やアーティストの方もお招きしてのトークイベントを行った。近隣の他大学に比して内容や頻度も充実しているのみならず、一般の方々の間にも徐々にこのイベントが浸透し、毎年ご参加いただく方も増えている。またコロナ禍で対面からオンラインに開催方法を切り替え、さらにオンラインイベントサイトの Peatix を通じ告知や申し込みを始めたところ、全国各地から参加者が集まるようになり、「椋山文化フェスティバル」の認知も広がっている。

さらに地域連携活動として「星が丘文化フェスティバル」を今年度初めて企画し、他大学など外部機関との連携による地域活性化を視野に入れた活動に拡大している。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

本年度は以下の二つのイベントを企画・実施した。

1. 2023年11月4日(土)に、星が丘テラス EASTのイベント広場にて、「第1回 星が丘文化フェスティバル」(椋山女学園大学・星が丘テラス共催)として、「めいおん@星が丘テラス 星降る丘コンサート」を開催した。これは名古屋音楽大学の学生によるミニコンサートで、当日は午前と午後の二回、それぞれ30分程度の演奏をお願いした。

午前中はサクソフォン四重奏、午後は金管五重奏で、一般の方々、とくに子供に馴染みのあるディズニーやジブリのメドレー、有名曲などを中心に誰にでも楽しめる演目を披露した。一般向けの演奏経験が豊富なメンバーが揃っていたため、トークやパフォーマンスなどで道行く人たちの関心を惹きつけ、たくさんの方々に楽しんでいただけていた。星が丘テラスの運営会社東山遊園の方々も足を運んでくださり、この雰囲気を見てぜひ今後もこのイベントを継続していきたいと仰って下さった。

2. 2024年1月28日(日)に、第5回椋山文化フェスティバルとして「上田早夕里×大矢博子トークショー」をオンラインで開催した。こちらは星が丘在住の書評家大矢博子氏に依頼して毎年行っているトークイベントであるが、今年度はSF、歴史小説など幅広い分野で活躍中の作家上田早夕里氏をお呼びし、2時間にわたっての対談をお願いした。昨年度の同様のイベントでは本学の教員が司会をしたがイベント後のアンケートで評判があまり芳しくなかったため、今回は経験豊富な大矢氏に全面的にお任せした。その結果アンケートでも大変好評で、今後も同様のイベントを開催してほしいとの声が多数寄せられている。

大矢氏、上田氏とも、現在各方面で活躍中の書き手であるため、事前にもこのイベントに関連したインタビューを受けたり、当日も多くの編集者、記者の方々がイベントに参加して下さっていたことを付け加えておく。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①文学	②音楽	③文化	④地域連携
⑤地域活性化	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

本年度は長澤を含め4名の組織でこの事業を行う予定であったが、長澤以外の3名からは事業の提案などはなく、結果的に長澤単独の企画となってしまった。また長澤も大学の業務等で多忙のため、上記二つのイベントしか企画できなかった。来年度については長澤が一人で企画運営する体制に組み替え、その中で実施可能なイベントとしていく予定である。

とくに星が丘テラス(東山遊園)との連携はとても重要な事業と考えており、今後はミニコンサート以外にも各種文化イベントを行っていきたいが、そのためには椋山女学園大学側からもサポートをしていただく必要があると痛感している。とくに社会連携センターにはぜひ全面的な関与をお願いしたい。

来年度についてはすでに名古屋音楽大学にもコンサートへの派遣を依頼しているが、さらに三越映画劇場でのイベントの企画など、新たな提案を星が丘テラスに出し、さらに事業を発展させていきたい。